文化・教育常任委員会　管外調査
令和元年７月 25 日から 26 日

１　横浜市会（神奈川県横浜市）

【調査事項】
ラグビーワールドカップ 2019 及び東京オリンピック 2020 に向けた機運醸成について

【調査目的】
ワールドマスターズゲームズ2021関西や京都スタジアムのオープンに係る機運醸成の参考とするため、ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックに向け取り組む同市のプロモーション・広報のあり方や、横浜国際総合競技場を活かしたスポーツ振興について調査する。

【調査内容】
同市においては、ラグビーワールドカップ2019の決勝戦をはじめ７試合が開催され、東京2020オリンピック・パラリンピックでは、サッカー、野球、ソフトボール競技が開催される。
同市は、両大会を盛り上げるためプロモーション・広報やイベントによる機運醸成に注力している。
ラグビーワールドカップ2019に向けては、開幕・決勝戦100日前・50日前などの節目を捉えてのカウントダウンイベントのほか、街灯バナーや横断幕等を掲出する都市装飾「シティドレッシング」等を実施している。
一方、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けては、大会パートナー企業と連携したカウントダウンイベントに加え、スポーツ庁の委託を受け、学校現場でのオリンピック・パラリンピック教育の取組等を推進している。
大会終了後は、培ったノウハウやパートナー企業との繋がりを市の財産として残し、一過性のイベントで終わることのないように取り組んでいくとのことであった。
また、事業内容について説明聴取後、会場となる横浜国際総合競技場を視察した。同競技場では、スタンド席の更新やLED照明化、来場者用トイレの洋式化といった、様々な機能を向上させる大規模な整備工事が完了しており、両大会の開催準備が整えられていた。

【主な質問事項】
・広報の費用対効果について
・今年度の予算について
・経済効果について
・大会終了後の組織体制について
・横浜国際総合競技場の騒音対策について　　など

概要説明を聴取

横浜国際総合競技場を視察

２　東京都美術館（東京都台東区）

【調査事項】
文化施設を中心としたコミュニティづくりについて

【調査目的】
地域に根差した文化振興策や大学の地域貢献のあり方の参考とするため、同館が東京藝術大学と連携して取り組む「とびらプロジェクト」や「Museum Start あいうえの」について調査する。

【調査内容】
同館では、地域の人々の社会参画を促す「社会的基盤」としての美術館の役割を果たすため、一般から集まったアート・コミュニケータ「とびラー」と、学芸員や大学の教員、第一線で活躍中の専門家が、同館を拠点に地域の文化資源を活かしながら、人と作品、人と人、人と場所をつなぐ「とびらプロジェクト」の活動を平成24年から実施してきた。

併せて、平成25年からは上野恩賜公園内にある９つの美術館や博物館などが連携し、子供たちのミュージアム・デビューを応援する「Museum Start あいうえの」のプロジェクトを展開している。

「Museum Start あいうえの」の運営チームは、学芸員と大学教員、教育学専門家などで構成され、各ミュージアムの専門家と子供たちのパートナーとなる「とびラー」が加わり、「ファミリー向けプログラム」や「学校向けプログラム」、また児童養護施設や経済的に困難な状況にある子供、または障害のある子供を含む多様な子供たちを支えるNPO団体などと連携した「ダイバーシティ・プログラム」を実施しているとのことであった。

【主な質問事項】
・財源について
・とびラーの選考について
・他の美術館との連携について　など

概要説明を聴取

３　ひと・まち・情報　創造館　武蔵野プレイス（東京都武蔵野市）

【調査事項】
「知的創造拠点」としての公共施設の取組について

【調査目的】
公共施設を活用した文化的交流の促進の参考にするため、固定的なサービスや役割に留まらず、地元企業・施設と連携した各種イベントの実施等、幅広い年齢層の新しい文化拠点となっている同館の取組について調査する。

【調査内容】
平成23年７月に開館した同館は、図書館機能をはじめとして「生涯学習支援」「市民活動支援」「青少年活動支援」等の機能を併せ持った複合機能施設として、年間利用者193万人超を記録している。開館当初から、公益財団法人武蔵野学習振興事業団が武蔵野市からの指定管理者として管理運営を行っている。
館内には生涯学習カウンターやこどもライブラリー、託児コーナー、カフェ、アート・ティーンズライブラリー、サウンドスタジオ等が整備され、滞在型のにぎやかな図書館として、利用者の多様な活動、利用に応じた幅広い世代の知的・創造的な活動及び交流を支援している。
特に３階では、「ワークラウンジ」と呼んでいる市民活動支援エリアを中心に、市民活動にかかわる情報の収集、提供や相談、支援を実施しており、市民活動団体相互のネットワーク化やマネジメントに関する支援にも力を入れているとのことであった。
図書館機能や市民活動を通して、人とひとが出会い、知的な創造や交流を生み出し、地域社会の活性化を深められるような活動支援型の公共施設をめざしているとのことであった。

【主な質問事項】
・事業における意思決定について

・有料スペースの利用状況について
・雑音等に対する苦情への対処方法について　　など

概要説明を聴取

施設を視察

4　ほっとスクール希望丘（東京都世田谷区）

【調査事項】
官民連携の不登校児童・生徒支援について

【調査目的】
不登校児童・生徒支援の参考とするため、全国でも珍しい公設民営の教育支援センターを視察し、それぞれの子供の状況に応じて学びの機会を提供する取組について調査する。

【調査内容】
同スクールは、不登校児童・生徒を支援するため、自治体が空き教室や学校以外の場所で個別に学習指導する「教育支援センター」として平成 31 年２月に設置された。
世田谷区内における不登校の児童・生徒数は増加傾向にあり、既存のスクールの定員超過などが課題となっていたことから、新たに設置が決定したものであり、全国でも珍しい公設民営方式の教育支援センターとして注目されている。
平成 28 年の教育機会確保法の成立等を受け、学校復帰にこだわらず多様な教育機会を確保するため、民間のノウハウを得ようと初めて運営者を公募。都内で 30 年以上もフリースクールの運営実績がある NPO 法人「東京シューレ」が選定された。
施設は、多目的室及び学習室、相談室の５部屋で構成され、学習指導や参加型体験活動、進路相談や教育相談が実施されている。子供の興味関心を伸ばす学習支援、魅力的な体験プログラムの開発・実践を行っているとのことであった。

【主な質問事項】
・同区で早くから取組が進められている経緯について
・医療機関との連携について
・親の会への参加率について
・学校への登校に繋がったケースについて　　など

概要説明を聴取

施設を視察